

# 海洋学習

# ローボート操船実習

# マニュアル



ユーハイム似島歓迎交流センター

## 1. 海洋学習のねらい

- (1) ローボートの操船実習を通し、「海」に親しむとともに、「海」について理解する。
- (2) 各自の役割を確実に果たし、みんなで力を合わせることで、素晴らしい結果が得られる体感すること。

## 2. 海洋学習実施場所及び安全対策

- (1) 海洋学習実施場所



- (2) 健康観察及び人員確認

- ①実習前（直前）に各団体で健康観察を行い、体調が悪い場合は無理をして参加させない。
- ②団体の指導者は、参加者・見学者の人数及び見学者の対応等について、職員に連絡する。

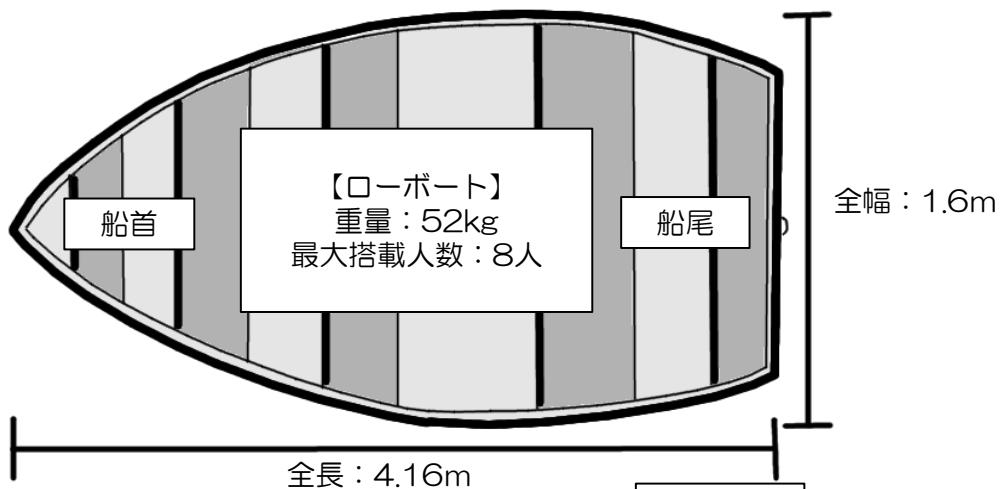
- (3) 安全対策

- ①実習の実施及び中止の決定は気象条件等により、団体指導者と協議の上、当所の判断で行う。
- ②団体指導者は、事前に安全指導の徹底を図る。安全で楽しく活動できるように指導する。
- ③参加者は安全確保のため、当所職員の説明や注意事項を守り、互いに協力するよう努める。
- ④乗船時には必ずライフジャケットを着用する。
- ⑤海岸で待機中、水際より2~3m離れ、海に入らないようにする。
- ⑥非常の場合は大声を出すなどして、近くの人に助けを求めるようにする。
- ⑦各グループごとの交代時や活動終了時には、人員確認を必ず行う。
- ⑧眼鏡等は、脱落防止の措置をして活動する。
- ⑨大きめの波がきた場合、波が収まるまで乗船・下船はしない。
- ⑩海岸のカキ殻、針金、ガラス片に注意し、裸足になつたり、カキ殻や石を投げたりしない。

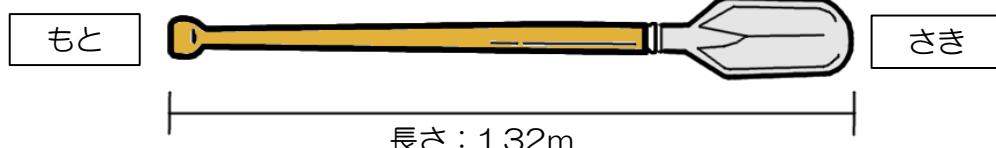
※ 別紙「海洋学習（ローボート・海力ヌー）安全対策要綱」をあわせてご確認ください。

### 3. 使用用具

(1) ローボート <エンジェルフィッシュ>



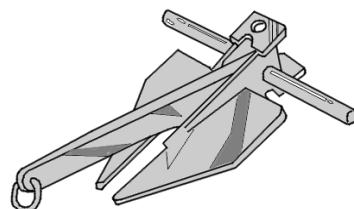
(2) パドル



(3) かじ <ラダー>



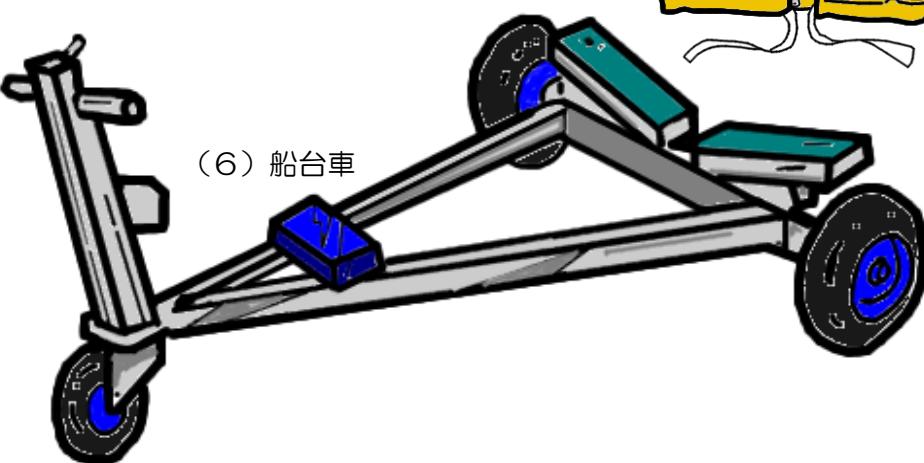
(4) アンカー <錨>



(5) ライフジャケット  
<救命胴衣>



(6) 船台車



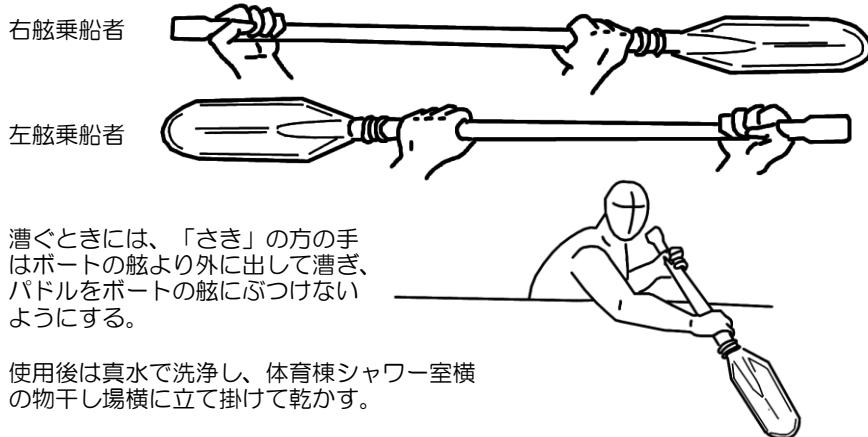
## 4. 用具の使用上の注意

### (1) ローボート

- FRP（ガラス繊維強化プラスチック）でできているので、水や鉄に比べて軽く腐食しにくい利点がある反面、衝撃に弱い欠点がある。飛び乗ったり、ぶつけたり、落としたりしないように注意する。
- 陸上では決して乗らない。
- 使用後は真水で洗浄し、バンガローの下へ収納する。

### (2) パドル

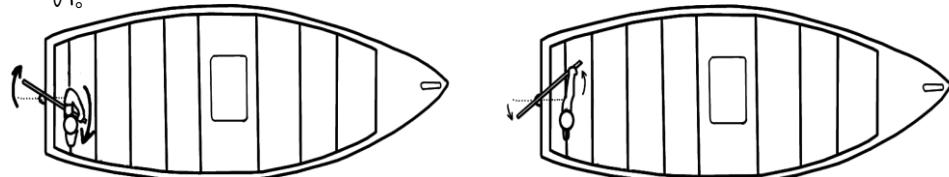
- パドルの「もと」の方は逆手、「さき」の方は順手で持つ。
- 持つ位置は、「さき」の方は「ブレード」の付け根付近に固定し、「もと」の方は肩幅位になるように調節する。



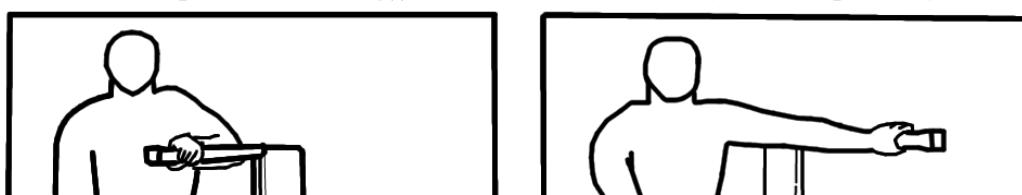
- 漕ぐときには、「さき」の方の手はボートの舷より外に出して漕ぎ、パドルをボートの舷にぶつけないようにする。
- 使用後は真水で洗浄し、体育棟シャワー室横の物干し場横に立て掛けて乾かす。

### (3) かじ（舵）

- かじ（舵）の取り付けは、ボート・「ラダー（舵板）」双方が揺れるため、慣れるまで大変難しい。
- 一方の手は下側の「ラダー金具」、もう一方の手は「チラー（舵棒）」をしっかりと持ち、下側の「ラダー金具」から取り付ける。
- かじ（舵）は「チラー（舵棒）」を持って操作する。右へ曲がるときは「チラー（舵棒）」を左へ、左へ曲がるときは「チラー（舵棒）」を右へ動かす。「チラー（舵棒）」を握っている手を、「自分の曲がりたい方向の反対側へ動かす。」と覚えると良い。



- 「チラー（舵棒）」を持っている手を、自分の身体に近づけることを「かじ（舵）を引く」と言い、自分の身体から遠ざけることを「かじ（舵）を押す」と言う。



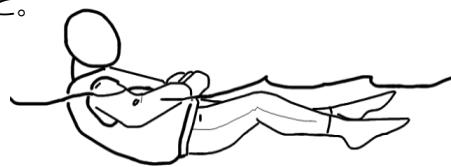
- 使用後は真水で洗浄し、体育棟シャワー室横の物干し場に立て掛けて乾かす。

#### (4) アンカー（錨）

- 重い(3.5kg)ので、ボートに落とさないように十分注意が必要。
- 「アンカー（錨）」の上げ下ろしの際、「アンカー（錨）」とロープがからまないようすること。
- 「アンカー（錨）」を落とすときに、ボートから転落しないように注意すること。また、「アンカー（錨）」を落とすときに、遠くに投げる必要はない。船べりから静かに落とせばよい。
- 使用後は「アンカーロープ」を付けたまま真水で洗浄し、ボートの中へ入れておく。

#### (5) ライフジャケット（救命胴衣）

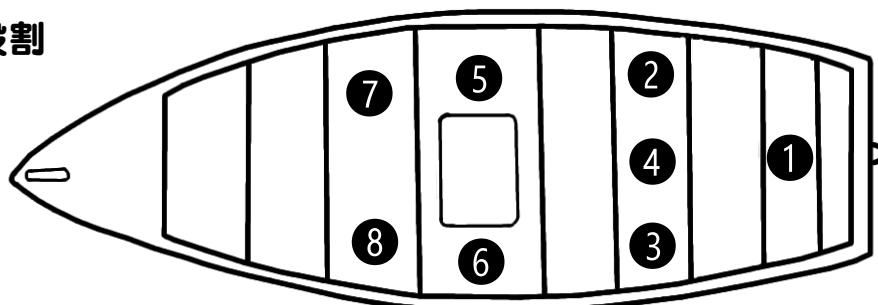
- 大・小、2種類があるので、体型に合ったものを使用する。
- ボートに乗船するときは、全員必ず着用すること。
- 腕を通し、チャックを閉め、腰ひもを結ぶ。
- ボートから落水したときは、上向きになり、脇をしめ、じっとしておく。泳いだり、暴れたりすると、浮力が低下する。
- 救助を呼ぶときは、大声を出すか、「ライフジャケット（救命胴衣）」に着いている笛を吹いて救助を求める。
- 使用後は真水で洗浄し、体育棟シャワー室横の物干し場のハンガーに掛けて乾かす。



#### (6) 船台車

- 船主側と船尾側に分かれてボートを運搬する。
- 船首側はロープではなく、船台車の先端部分のハンドルを持って運搬する。
- 「船台車」は三輪で、前側の車輪しか方向が変わらない。曲がり角や自動車・ガードレールの横などでは、十分に注意して方向を変えること。  
(特に曲がり角では大きく曲がること)
- 運搬中は、ボートにぶら下がったり、乗ったりしないこと。また、走ったり、前のボートを追い越したりしない。
- 自動車やバイクが近づいたときには、速やかに山側に移動し、道を譲ること。
- ボートを降ろした「船台車」を、ベンチ代わりにして座ったりしないこと。
- 使用後は真水で洗浄し、ボートをのせたままバンガローの下に収納する。  
(特に車輪の軸受けは、しっかりと洗浄すること)

### 5. 乗船位置と役割

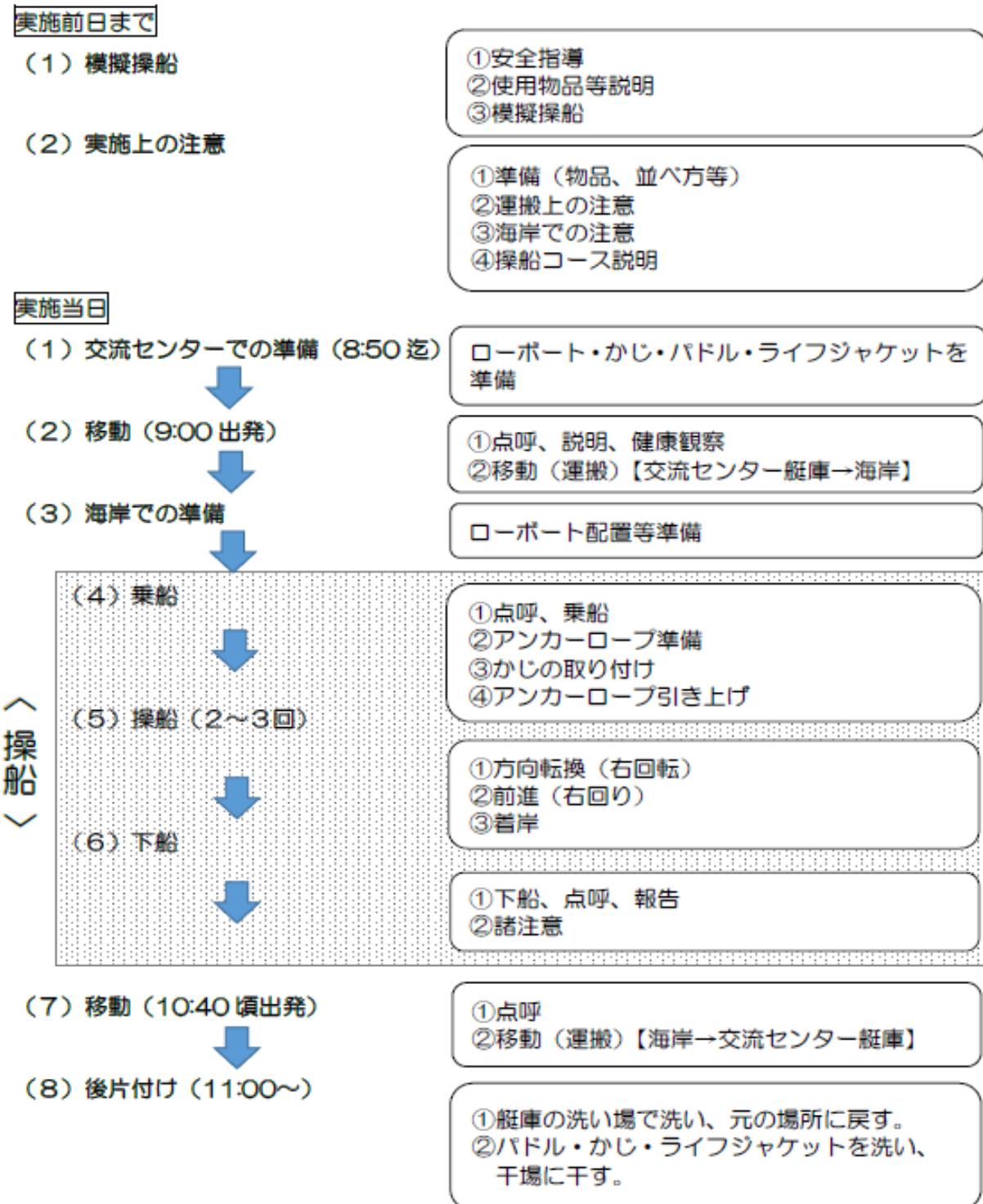


- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| ①・・・舵の操作            | ⑤・・・漕ぎ手（右真ん中）           |
| ②・・・漕ぎ手（右後）・アンカーの操作 | ⑥・・・漕ぎ手（左真ん中）           |
| ③・・・漕ぎ手（左後）         | ⑦・・・漕ぎ手（右前）             |
| ④・・・全体の指揮・声かけ       | ⑧・・・漕ぎ手（左前）・乗船、下船時の船おさえ |

(7名で乗船するときは、①は④の役も兼ねる)

## 6. 乗船方法

### 6-1. 乗船までの流れ（フローチャート）



## 6-2. 乗船方法（図解）

### （1）乗船報告

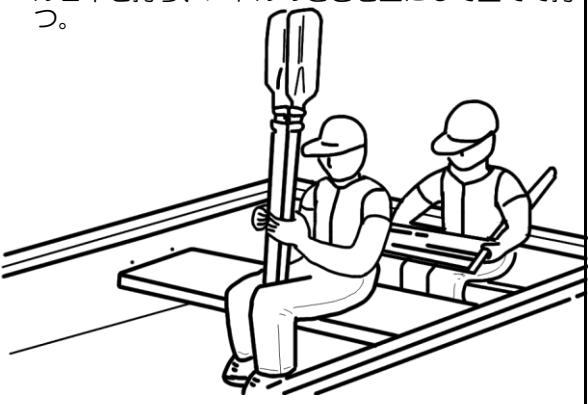
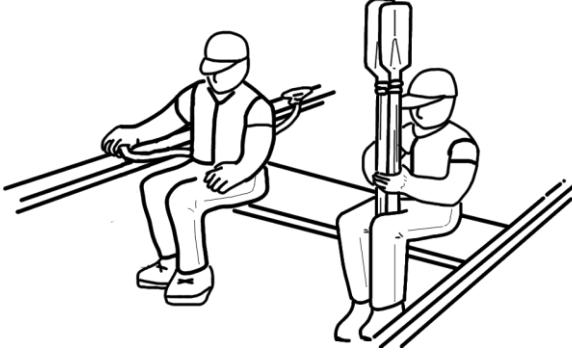
	内 容	号令・かけ声等	
1. 整列	・ライフジャケットを着用し、自分達が乗船する船の前に整列する。	①番	「整列」
			
2. 点呼	・全員がそろっているかどうか、番号をかけて確認する。	①番 ①～⑧番	「番号！」 「イチ、二、サン～シチ、ハチ！」
3. 乗船報告	・乗船することを担当の指導者に報告する。	①番	「〇班〇名、乗船します！」
4. 乗船許可	・報告を受けた指導者は、人数・服装（ライフジャケット）、海、ボートの状況などをチェックして、乗船許可を与える。	指導者 ①～⑧番	「〇班〇名、乗船を許可します！」 「オー！」

### （2）乗船

	内 容	号令・かけ声等	
1. ボート固定	・乗船時に少しでもボートの揺れをおさえ、また、不意の波に備えるために、⑧番が船首部分を押さえて固定する。（またいで固定してもよい）	⑧番 ①～⑦番	「ボート押さえよし！」 「オー！」

#### ★乗船する際の注意点

- ・①番から順番に一人ずつ乗船すること。（前の人気が座ってから乗船を始める）
- ・足やくつが濡れるのを嫌がって飛び乗ることは、スリップ事故の原因となり大変危険なので、足やくつが濡れてもゆっくりと安全に乗船すること。
- ・ボートは海に浮いているので、常に揺れている。また、いつ大きな波が来るか分からないので、船内を移動する際は、必ず両手をついて低い姿勢で移動すること。
- ・ボートの上で立ち上がったり座席の上に立ったりすると、ボートの重心が高くなり、ボートのバランスが崩れやすく大変危険なので、常に低い姿勢で重心を低く保つこと。
- ・両側の①・②・③・⑤・⑥・⑦・⑧番は、できるだけボートの外側に座ること。  
(ボートの重心がより安定し、パドルも操作しやすい)
- ・乗船後の各操作は、座席に座ってから行うこと。

	内 容	号令・かけ声等	
2. ①番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船し、所定の位置に座ったらかじを持ち、ひざの上に用意する。（まだ水深が浅いので、かじが海底に当たり取り付けができるない）</li> <li>①番は②～⑧番が乗船する際、ボートのバランスを取るために座席の中央に座る。</li> </ul> 	①番 ①番以外	「①番、乗船します！」 「オー！」
3. ②番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船し所定の位置に座ったら、バランスを取るために座席の中央に座り、自分と③番の使用するパドル2本を持ち、パドルのさきを上にして立てて立てる。</li> </ul> 	②番 ②番以外	「②番、乗船します！」 「オー！」
4. ③番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>③番が乗船してきたら、座ったまま所定の位置に移動し、パドル2本を③番に渡す。</li> <li>パドルを渡したら、アンカーロープを手にかけてアンカー操作の準備をしておく。</li> <li>乗船し所定の位置に座ったら、自分と②番のパドルを2本持ち、パドルのさきを上にして立てて立てる。</li> </ul> 	③番 ③番以外	「③番、乗船します！」 「オー！」

	内 容	号令・かけ声等	
5. ④番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船し所定の位置に座ったら、②番のパドルを③番から受け取る。（④番がないときは、②番のパドルは③番がもったまま）</li> </ul>	④番 ④番以外	「④番乗船します！」 「オー！」
6. ⑤番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船し所定の位置に来たら、自分と⑥番のパドルを2本持ち、パドルのさきを上にして、座席の中央に座る。</li> <li>⑥番が乗船してきたら、座ったまま所定の位置に移動し、⑥番のパドルを渡す。</li> </ul>	⑤番 ⑤番以外	「⑤番乗船します！」 「オー！」
7. ⑥番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船し所定の位置に座ったら、自分のパドルを⑤番から受け取る。</li> </ul>	⑥番 ⑥番以外	「⑥番乗船します！」 「オー！」
8. ⑦番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船し所定の位置に来たら、自分と⑧番のパドルを2本持ち、パドルのさきを上にして、座席の中央に座る。</li> </ul>	⑦番 ⑦番以外	「⑦番乗船します！」 「オー！」
9. ⑧番乗船	<ul style="list-style-type: none"> <li>船台車に巻き付けてある船首ロープをほどき、束ねて片手で持つ。</li> <li>全員に声をかけてから、ボートをゆっくり力強く押し出す。（勢いよく押すと、自分が乗船できなくなる）</li> <li>ボートに乗船することができなかったときは、手に持っている船首ロープを引っ張って、ボートをたぐり寄せて、全員への声かけからやり直す。</li> <li>乗船し所定の位置に座ったら、自分のパドルを⑦番から受け取る。</li> </ul>	⑧番 ⑧番以外	「行くぞー！」 「オー！」

### (3) かじの取り付け

	内 容	号令・かけ声等	
1. 異岸	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧番が乗船し所定の位置に座ったら、②番はアンカーロープをゆっくりとたぐり寄せる。（このときボートはゆっくり浜から離れていく。）</li> <li>アンカーロープが真下にまっすぐ伸びたところでたぐり寄せるのをやめ、ボートが動かないようアンカーロープをしっかりと握っておく。（このときアンカーは海底にある）</li> <li>アンカーロープを固定したことを、全員に報告する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>アンカーが海底から離れていると、かじを取り付けている間に、風や波、潮流でボートが流されてしまうので、かじが取り付けられるまでは、アンカーは海底に固定しておくこと。（アンカーを海底から上げてしまったときは、アンカーロープを握っている手を離し、アンカーを海底に落としてから、再びアンカーロープを握り直す）</li> </ul>	②番 ②番以外	「アンカーロープよし！」 「オー！」

	内 容	号令・かけ声等	
2. かじ付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>②番の報告を聞いてから、①番はかじを取り付ける。ボートもかじも揺れるので、なれるまでには大変難しく時間もかかる。①番は焦らず落ち着いて作業し、①番以外の人はじっとしてボートが揺れないようにする。</li> <li>かじの取り付けが完了したら全員に報告する。</li> </ul> 	①番 ①番以外	「かじ、よし！」 「オー！」
3. アンカーの収納	<ul style="list-style-type: none"> <li>①番の報告を聞いてから、②番はアンカーロープをたぐり寄せ、アンカーをボートの中に収納する。</li> <li>引き上げたアンカーは足もと、アンカーロープは自分の後ろに置く。（アンカーロープが足にからまないようにするため）</li> <li>アンカーを上げたり、置いたりするときに、アンカーをボートに強くぶつけないように注意する。</li> <li>アンカーをボートの中に収納したら、全員に報告をする。</li> <li>②番はアンカーの収納を報告したら、自分のパドルを④番から受け取る。（④番がないときは③番から）</li> </ul> 	②番 ②番以外	「アンカーよし！」 「オー！」

(4) 方向転換 ※右に回る方法のみを覚えておいてください。

	内 容	号令・かけ声等	
1. 準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>④番は、ボートを右に回転させるため、全員に報告しパドルを用意させる。</li> <li>ボートを右に回すときは、右側に座っている②・⑤・⑦番が後にパドルを構え、左に座っている③・⑥・⑧番が前にパドルを構える。①番はかじ棒を左に動かす。</li> </ul>	④(①) 番 ④(①) 番以外	「右へ回ります。 パドル用意！」 「オー！」

	内 容	号令・かけ声等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボートを右に回すためには、右側に座っている②・⑤・⑦番が後ろにパドルを構え、左側に座っている③・⑥・⑧番が前にパドルを構える。①番はかじ棒を左に動かす。</li> </ul>	
2. 方向転換開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>④(①)番はパドルとかじの用意ができたことを確認し、かけ声をかける。</li> <li>④(①)番の「キャッチ！」のかけ声と同時に、②・③・⑤～⑧番は、パドルを水面に突っ込み、「オー！」のかけ声と共に、前に構えたパドルは後に、後に構えたパドルは前に力一杯こぐ。</li> <li>こぎ終えたらパドルを水面から上げ、すぐ元の構えの位置に戻す。</li> <li>6本のパドルが元の構えの位置に戻った瞬間に、④(①)番は次の「キャッチ！」のかけ声をかける。</li> <li>数回繰り返すと、ボートはその場で向きを変えていく。</li> </ul>	<p>④(①)番 ④(①)番以外</p> <p>「キャッチ！」 「オー！」</p>

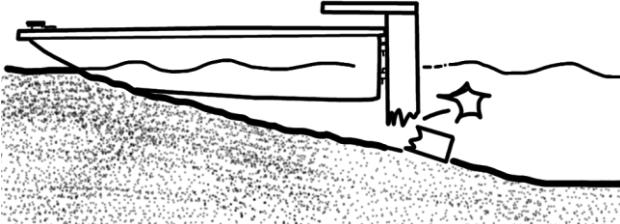
	内 容	号令・かけ声等	
3. 完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼ反転したところで、④(①)番は6本のパドルを止めさせる。(完全に反転して止めると、惰性で回りすぎてしまう)</li> <li>②・③・⑤～⑧番はパドルを水面から上げ、立てて(又は水平にして)おく。</li> <li>①番はかじを中央に戻す。</li> </ul>	④(①)番 ④(①)番以外	「パドルやめ!」 「オー!」

## (5) 前進

	内 容	号令・かけ声等	
1. 直進	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖のブイに向かって前進する。</li> <li>④番は目標物(ブイ)を全員に指示し、前進の用意をさせる。</li> <li>②・③・⑤～⑧番はパドルを前に構える。</li> <li>①番は目標物(ブイ)を確認し、ボートが目標に向かうようにかじを調節する。</li> <li>④(①)番はパドルとかじの用意ができたことを確認し、かけ声をかける。</li> <li>②・③・⑤～⑧番は④(①)番のかけ声に合わせて、カ一杯こぐ。</li> <li>②～⑧番はかけ声のリズムに合わせて、前進を続ける。</li> <li>①番は目標物(ブイ)から目を離さず、ボートが常に目標物の方向に向くようにかじの微調整を行う。</li> <li>また、他のボートの状況をよく観察し、接触・衝突のないように早めにかじを切ること。</li> <li>風があるときは、風に流されることも考えて、目標物(ブイ)よりやや風の吹いてくる方向に進むとよい。</li> <li>ブイを回ったり、他の船をよけるために曲がったりするときは、かじだけを使って曲がること。</li> <li>パドルでブレーキをかけたり、逆こぎをしない。(ブイを回るときも、②～⑧番は前進と同じように、前から後にこぐ。)</li> <li>かじは自転車のハンドルと同様で、泊まっているとボートの方向を変えることができない。ボートの速度が速いほど、かじはよくきく。</li> <li>他のボートとの衝突を避けるため、ブイは常に右回りとする。</li> </ul> <p>★どうしても他のボートと接触・衝突が避けられないときの注意事項    •手やパドルを出さない。(ボートの間に手を挟んだり、パドルで人を突いたりするから)    •接触・衝突した後、お互いのボートが完全に止まってから、前側にあるボートから遠く離れる。</p>	④(①)番 ④(①)番以外 ④(①)番 ②・③・⑤～⑧番 ④(①)番 ①～③・⑤～⑧番	「沖のブイに向かって、前進します!」「パドル用意!」 「オー!」 「キャッチ!」 「オー!」 「キャッチ!」「オー!」

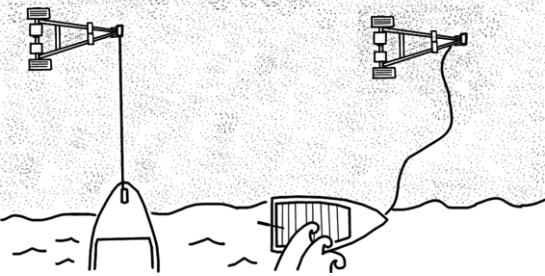
## (6) 着岸

内 容		号令・かけ声等
1. 進路調節	<ul style="list-style-type: none"> <li>①番は自分達のボートの着岸地点を確認し、その地点へ浜に対して直角に着岸できるように、沖から進路を調節していく。</li> <li>浜に対して斜めに入ると、アンカーロープが他のボートのものと交差したり、着岸した後にボートが横波を受けて浸水したりする。</li> </ul>	
2. アンカーリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>②番は船首から岸まで約10m（②番の位置から約15m）の位置に来たら、パドルを足下に置きアンカーを持って落とす準備をする。            ②番からは15m位の位置            船首からは10m位の位置         </li> <li>②番はアンカーの準備ができたら、再び船首と岸との距離を確認する。</li> <li>②番は船首と岸との距離が約5m（②番の位置から10m）の位置に来たときに、アンカーを海に落とす。（アンカーは投げるのではなく、そっと手を離すだけよい）            ②番からは10m位の位置            船首からは 5m位の位置         </li> </ul>	

	内 容	号令・かけ声等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンカーを落とすのが早すぎると、ボートは岸に着かない。</li> <li>このときは、岸にいる指導者に⑧番は船首ロープを投げて引っ張ってもらうか、②番がアンカーを引き上げて、再度アンカーを落とし直す。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>アンカーを落とすのが遅すぎると、アンカーロープがたるみ、着岸したボートがしだいに横を向き横波を受けて浸水しやすくなる。</li> <li>このときは、全員が下船するまでボートが横を向かないように、指導員や手のあいている者がボートを押さえる。全員が下船後に指導員はアンカーを打ち直す。</li> </ul> 	
3. 着岸	<ul style="list-style-type: none"> <li>①番は船首が岸から1m（①番の位置から6m）の位置に来たときに、かじをはずす。</li> <li>岸に着岸するまでかじを付けたままでいると、かじの下側が海底に当たり、ラダー金具を破損する可能性がある。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>②・③・⑤～⑧番は、着岸し④（①）番が指示するまで、力強くこぐ。</li> <li>着岸したら④（①）番は、パドルの動きを止める指示を出す。</li> <li>②・③・⑤～⑦番は、④（①）番の指示でこぐことをやめて、パドルを水から上げる。</li> <li>⑧番は④（①）番の号令でこぐことをやめて、パドルを水から上げると同時に、パドルを足下に置き、船首ロープを持って、すぐに下船する。</li> <li>⑦番はバランスを取るために中央に座る。</li> </ul>	④（①）番 ④（①）番以外  「パドルやめ！」 「オー！」

	内 容	号令・かけ声等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>②・③・⑤～⑦番は、⑧番が下船の準備をしている間に、パドルを足下に置く。</li> <li>①番はかじを横にして座席の後部に置き、中央に座る。</li> <li>着岸したからといって、勝手に立ち上がりつたり、下船したりしないこと。</li> </ul>	

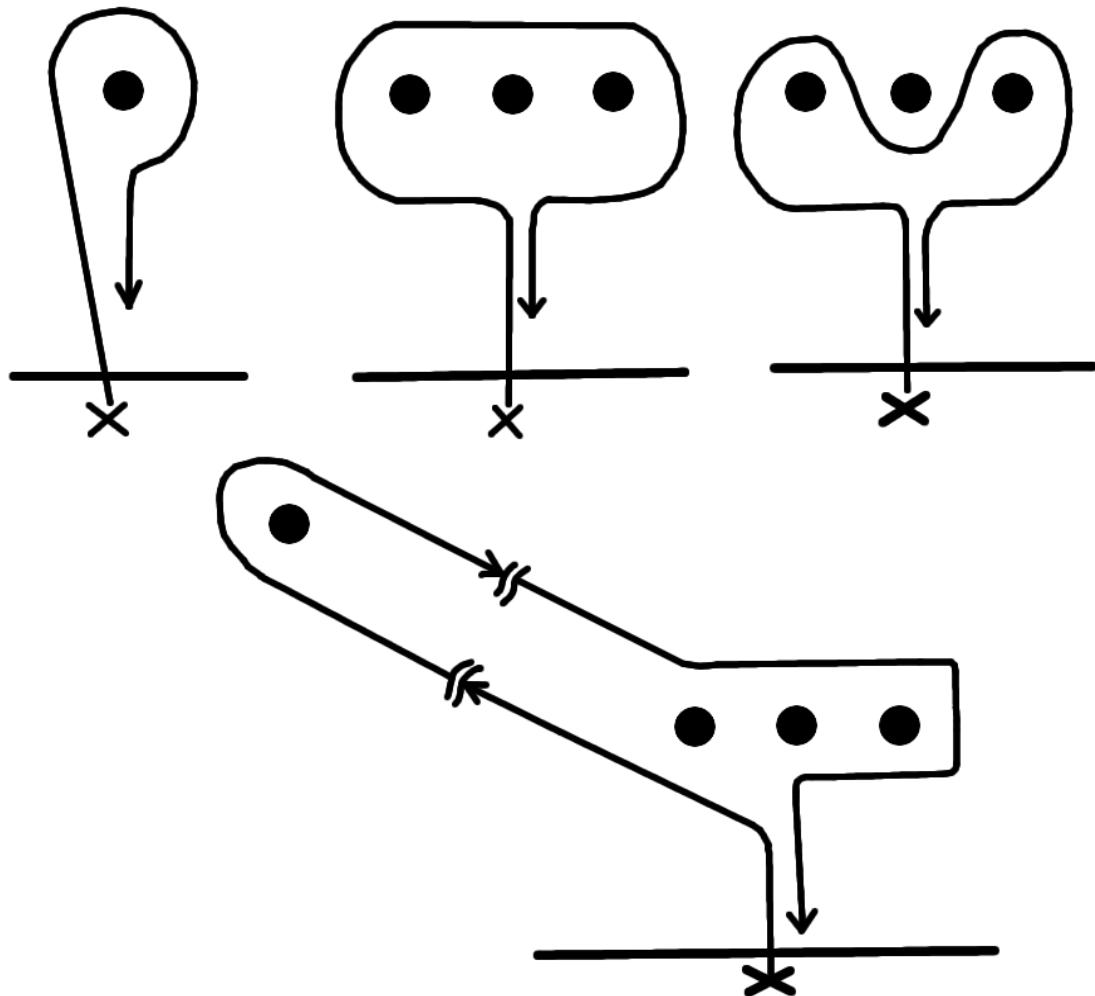
## (7) 下船

	内 容	号令・かけ声等
1. ボート固定	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧番は、船首ロープを船台車に固定する。（ロープをまたがせる方がよい）</li> </ul> 	
2. ⑦番下船	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧番は、下船時のボートの揺れを少しでも抑え、また、不意の波に備えるため、船首部分を押さえて固定する。（またいで固定してもよい）</li> </ul>	⑧番 「ボート押さえよし！」
3. ⑥番下船	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船時と同じように、両手をついて低い姿勢で下船する。</li> <li>下船したらすぐに整列できるように並んでおく。</li> </ul>	⑦番 ⑦番以外 「⑦番下船します！」 「オー！」
4. ⑤番下船	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦番が完全に下船してから下船を始める。（⑤番はバランスを取るために中央に座る）</li> <li>下船したらすぐに整列できるように並んでおく。</li> </ul>	⑥番 ⑥番以外 「⑥番下船します！」 「オー！」
5. ④番下船	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥番が完全に下船してから下船を始める。</li> <li>下船したらすぐに整列できるように並んでおく。</li> </ul>	⑤番 ⑤番以外 「⑤番下船します！」 「オー！」
6. ③番下船	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤番が完全に下船してから下船を始める。</li> <li>下船したらすぐに整列できるように並んでおく。</li> </ul>	④番 ④番以外 「④番下船します！」 「オー！」
7. ②番下船	<ul style="list-style-type: none"> <li>④番が完全に下船してから下船を始める。（②番はバランスを取るために中央に座る）</li> <li>下船したらすぐに整列できるように並んでおく。</li> </ul>	③番 ③番以外 「③番下船します！」 「オー！」
8. ①番下船	<ul style="list-style-type: none"> <li>③番が完全に下船してから下船を始める。</li> <li>下船したらすぐに整列できるように並んでおく。</li> </ul>	②番 ②番以外 「②番下船します！」 「オー！」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>②番が完全に下船してから下船を始める。</li> </ul>	①番 ①番以外 「①番下船します！」 「オー！」

## (8) 下船報告

	内 容	号令・かけ声等	
1. 整列	・①番は下船したらすぐに、自分達が乗船した船の前に全員を並ばせる。	①番	「整列！」
2. 点呼	・全員がそろっているかどうか、番号をかけて確認する。	①番 ①～⑧番	「番号！」 「イチ、二、サン ・・シチ、ハチ！」
3. 下船報告	・下船したことを担当の指導員に報告する。	①番	「○班○名、下船しました！」
4. 評価	・報告を受けた指導員は乗船、操船、下船の方法などに関して評価をして、次の乗船に向けての課題を提示する。	指導者 ①～⑧番	「○班は・・・でした！次回は・・・に気を付けて頑張ろう！ご苦労様でした！」 「ありがとうございます！」

## 7. 操船パターン



## 8. 実際の運営及び注意事項

### (1) 入所するまでの準備

- ・ 参加者を7人または、8人のグループに編成しておく。（6人以下、9人以上は不可）
- ・ 乗船位置と役割の関係を理解させ、各グループごとに乗船位置（番号）を決めておく。

### (2) 模擬操船時の準備と片付け

- ・ プレイホールのステージに模擬船を用意する。
- ・ ステージの模擬船も含め、少なくとも2グループに1つの割合で、折り畳みベンチを使った模擬船をフロアに用意する。
- ・ 各模擬船にパドル6本・かじ1個・ライフジャケット8着・アンカー1個・台車に見立てたクリート1個を用意する（ライフジャケット必要に応じて用意）。
- ・ ステージの模擬船には、アンカーも用意する。
- ・ 集合する際は、プレイホールに入り向かって右側のステージを正面にして、乗船するグループごとに整列する。（乗船順に整列するのが望ましい）
- ・ 模擬操船終了後は、折り畳みベンチ・パドル・ライフジャケット・かじ・アンカー・台車に見立てたクリートを元の位置に片付ける。

### (3) 実習当日の準備

- ・ 午前8時50分までに、つどいの広場に班ごとに集合する
- ・ トイレを済ませ、濡れてもよい靴・服装で集合する。  
(靴下もはいた方がよい)
- ・ 必要に応じて、帽子・水筒・タオル・班旗などを用意する。
- ・ 通行する車両等に気を付けて、艇庫まで移動する
- ・ 艇庫内のローボートにライフジャケット（7～8枚）を入れる。

### (4) 実習海岸までの移動

- ・ 船台車の移動方法に注意して、分担してボートを運ぶ。
- ・ 海岸での準備の都合上、先頭は監視・救助艇、その後からローボートの順番で運搬する。
- ・ 各ボートの先頭には指導者がつき、移動中の安全指導を行う。
- ・ 移動は公道を通るので、安全には十分注意を払い、自動車やバイク・自転車が来たときは、山側の広い場所に移動する。
- ・ ボートを運搬するときは、走ったり、前のボートを追い越さない。
- ・ 運搬中のボートや船台車に乗ったりしない。

### (5) 海岸での準備

- ・ ボートを道路から海岸へ降ろす作業は、船台車のハンドル操作をセンター職員・指導員が行う。
- ・ ライフジャケットを船内から出し、各ボートの前に出しておく。
- ・ アンカーロープがアンカーと船尾に、それぞれ固定されていることを確認する。
- ・ 船首ロープを船台車から外し、ローボートを海に浮かべる。
- ・ アンカーをできるだけ沖に落とす。
- ・ 船台車を海岸線と平行に配置し、船首ロープを船台車に固定する。
- ・ 監視・救助艇の準備・ブイの設置は、センター職員で行う。

### (6) 海岸での注意事項

- ・ 浜には、力キ殻、針金、ガラスの破片などがあるので、裸足になつたり、砂遊びをしない。
- ・ 力キ殻や石を投げて遊ばない。（力キ殻でけがをする可能性がある）
- ・ トイレに行く場合は、必ず担当の指導者に連絡してから行く。
- ・ 待機しているグループは、整列して座り、決して海には入らない。
- ・ 沖合をフェリーや高速船が航行し、大きな波が来たときには、着岸しているボートは押し出し、海の上に完全に浮かべておく。（後部からの海水の浸水を防ぐため）

### (7) 海岸での片付け

- ・ ローボートを船台車に乗せ、浜に上げる。
- ・ 船尾の船底にある水抜き栓を外し、船内の海水を抜く。
- ・ パドル、かじ、ライフジャケットをローボートに入れる。
- ・ ローボートを海岸から道路に上げる（船台車のハンドルは引率者・職員が操作する）。
- ・ 監視艇・救助艇はかなり重いので、みんなで協力して海岸から道路に上げる。
- ・ 忘れ物がないか確認する。

### (8) 海岸から交流センターへの移動

- ・ 海岸への移動と同様に、安全には十分注意すること。
- ・ 艇庫に着いたら、監視艇・救助艇は艇庫前の水道前に並べる（4台ずつ）。
- ・ 監視艇・救助艇は艇庫まで運搬後、監視員・救助員に引き継ぐ。

### (9) 後片付け

- ・ ライフジャケット・パドル・かじは水槽につけ、海水を洗い流す。
- ・ 洗い終わったライフジャケットは、艇庫の物干し場のハンガーにつるして乾かす。
- ・ パドル・かじは水洗いをし、ローボート内に戻す。
- ・ ローボートは流水で海水を洗い流し、船尾の水抜きから水を抜く。
- ・ 船台車も流水で海水を洗い流す。特にタイヤの軸受け部分は入念に洗う。
- ・ 洗い終えたローボートは、艇庫内に戻す。
- ・ 監視・救助艇は、監視員・救助員がエンジン・船体・船台車の洗浄を行う。

## 9. 安全監視体制

- (1) 総合監視 \_\_\_\_\_ センター長1名（または副センター長）  
(2) 海岸監視 \_\_\_\_\_ センター職員1名  
\_\_\_\_\_ 団体の指導者（引率所）1艇につき1名  
(3) 海上監視 \_\_\_\_\_ 監視員 2名（センター側で用意します）

## 10. 緊急連絡体制

